

令和7年10月8日（水） 16:00～
図書ホールにて

令和7年度 第2回学校運営協議会

○委員

- A 会長
- B 障がい者福祉サービスの施設長（副会長）
- C 松原市内中学校校長
- D 松原市内小学校校長（欠席）
- E 中小企業家同友会南東部ブロックより
- F PTA会長（欠席）

1. 学校長挨拶

- ・授業参観へのご参加、ありがとうございました。
- ・現状について

閉校に向けて学校の物品を整理し始めている。欠席が多いのが課題である。教員とのつながりを大事にしながら課題を解決していきたい。登校している生徒は楽しそうに前向きに学校生活を送っている。

- ・授業アンケート結果について

肯定的な意見が96%ほどである。3学年のみ90名ほどの学校運営であり、教員との関係が構築できていることが大きいかもしれない。

2. 学年、分掌より

<3学年主任>

- ・懲戒件数は遅刻による校長訓告1件のみであるが、全体の遅刻の数が多い。勉強面で課題がある生徒も多い。
- ・就職は8割の生徒が一次内定。進路未決定の生徒が一定数いるので学年としてアプローチしていきたい。
- ・学校行事に関してはかなり積極的に参加している。韓国へのスタディツアーや学年の2割ほどの18名が参加した。今は文化祭に向けて一生懸命に取り組んでいる。

<教務部>

- ・前年度不認定だった科の追認講習を7月、8月で行った。かなり出席率も高く点数もよかつたため9割ほどの生徒が単位を修得することができた。
- ・校務処理の変更等でマニュアル作成にかなり時間を取りられた。また、不安定さがあり対応に追われている。アノログで確認作業を進め、ミスがないように進めている。
- ・新学習指導要領4年めになった。今までの評価方法等をしっかりと見なおしていきたい。

<進路指導部>

- ・進路ガイダンスを数回行い、進路未決定の生徒にアプローチしている。進学、就職講座を放課後に行っている。特に進学希望の生徒の生徒には外部の方をお招きして、志望理由書の書き方等を教えていただき、生徒は真剣に取り組んでいた。
- ・学校斡旋による就職希望は24名で一次内定率は79%であった。
- ・進学について、AO入試（総合型選抜）による受験を希望する生徒が多い。本校だけでなく全体的にその傾向があり、9月の受験が例年より厳しくなっている。指定校推薦の案内をデジタル化して見られるようにした。

<生徒指導、生徒会>

- ・懲戒案件に関して、遅刻による校長訓告が1件のみと、昨年度に比べて大幅に減少している。細かな生徒指導上の案件はあるものの、大きな問題が起きることなく落ち着いた学校生活を送ることができている。
- ・体育大会に関して、1箇学年だけではったが、保護者、PTA、卒業生の協力もあり盛り上がって行えた。
- ・文化祭は3クラスとも劇で模擬店等をするクラスがないため、そういったところをカバーできるように様々な企画を考えている。移動動物園やVR体験など、外部の業者にも来てもらい、多くの方に楽しんでもらえるように企画している。
- ・生徒会執行部も、例年は後期の改選で1、2年生から立候補を募るが、3年生のみであるので、前期の執行部役員がそのまま卒業（後期）まで務めるようにする予定である。

4. 協議、まとめ

委員：授業を見学させていただいた。以前にも見学させていただいたが、その時に比べると少し寂しい雰囲気はあった。しかし、授業は熱心に取り組んでいる生徒が多いように感じた。教科によっては雰囲気づくりの難しさがあることも感じた。

委員：欠席遅刻は多いが、懲戒件数は減っているのはどういう状況なのか。

教員：全体の遅刻数は多いが、期間によって指導内容が変わるために、懲戒指導にならないように努力している生徒が多い。そのため懲戒件数は減少している。

委員：文化祭の劇はどういった劇になるのか、クラスの雰囲気はどんな感じか。

教員：主人公を分けて行うなどの工夫をしたりしている。セリフだけで合わせるなど少しずつ盛り上がりつつある。

委員：奨学金について、どれぐらいの生徒が利用しているのか。

教員：JASSOを利用している生徒はほとんど。他にも教育ローンを借りる生徒も数名いる。

委員：奨学金支援制度について、会社が奨学金を支援する制度があり、当社も導入している。会社としては毎月の支払い支援している。会社を選ぶときにそういった制度があるかどうかをも選ぶ基準にできる。

委員：本校でも授業アンケートを取っているが、肯定的な意見が多い。日常的な学習、家庭学習をしない生徒が多く、スマホの利用時間はすごく多い。どうすれば生徒が前向きに取り組み、肯定的な意見が増えるのか。

教員：生徒の様子を共有して状況に応じて連携して授業をおこなうようにしている。

教員：本校は、どちらかというと家庭学習の時間を増やすことよりは、その日の授業にどう積極的に取り組ませるか、ということに重点を置いて行っている。

委員：不登校の生徒がいるみたいであるが、卒業に向けてどのようなアプローチをしているのか。

教員：朝、家に迎えに行って一緒に自転車で登校したりしている。

委員：教員の負担は？

教員：学年団の教員と、それ以外の教員も協力して、負担を分散しながらおこなっている。

委員：観点別評価を生徒はどう受け止めているか？

教員：中学校の時から観点別で評価を受けてきているので生徒は慣れている。

委員：生徒が前向きに学校生活に取り組むには？

委員：何のために勉強するのかは学生の時は難しいが、何かのタイミングでそれが活きたりするかもしれない。どこかのタイミングで役立つことがあるかもしれないという希望を持てるような話をしてあげれば良いのではないか。生徒の持っている力を活かせる機会をつくり、残り少ない学校生活を過ごさせてあげてほしい。

まとめ

どんなことでも前向きになれるように、遅刻に関しても「遅刻をするな」ではなく、「みんな来る日を作つてみよう」などの取り組みをすることなどが有効ではないか。

5. その他（連絡）

次回は1月21日（水）の予定